

生産性向上支援訓練カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター
 実施機関名： パナソニックエレクトリックワークス創研株式会社

B. 組織マネジメント	リスクマネジメント	059 災害時のリスク管理と事業継続計画
-------------	-----------	----------------------

コースのねらい	災害は突発的に派生するため、緊急時の対応力が求められるが、想定通りに発生するはずもなく緊急時の対応・判断は難しい状況がある。そうした状況が発生した際にも復旧の遅れや自社のサービスが供給できないことによる顧客離れを防ぎ、事業への被害を最小限に抑えるためのリスク管理と事業継続計画に関する知識を習得する。
---------	--

講義内容	「基本項目」	「主な内容、演習」	訓練時間 (H)	
	1	■ 災害におけるリスクマネジメント	(1) 現代の脅威：自然災害とサイバー攻撃 ・地震、水害等の自然災害の被害想定 ・急増するサイバー攻撃（ランサムウェア等）の脅威と損害 (2) 初動対応の重要性 ・災害発生時の安否確認と二次被害防止 ・サイバー攻撃検知時の「隔離」と「報告」のルール (3) 災害リスクの洗い出しと分析 【演習】IT資産・データを含むBCP自己診断チェック （自社が今、災害や攻撃にどれだけ耐えられるかの現状認識）	2.0
	2	■ 事業継続計画の策定	(1) 事業継続計画とは ・自然災害とサイバー、共通して守るべき「優先業務」の選定 ・物理拠点とITシステム、両面の復旧目標設定 (2) 事業継続計画策定の流れ ・事業継続計画の策定の意義（基本方針） ・実施推進体制（災害対策本部とCSIRT/情シスとの連携） ・代替手段の確保（リモートワーク、紙ベース運用、バックアップ等） ・策定後の改善プロセス (3) 手順・計画マニュアルの作成 【演習】実際のフォーマットを参考に、サイバー事案も想定したBCPマニュアル作成（初動・復旧手順）	2.0
	3	■ 事業継続計画の周知と改善	(1) 従業員への周知と教育 ・事業継続計画の実効性を高めるための教育、訓練の必要性 ・全社員で取り組む防災意識と情報セキュリティリテラシー (2) 事業継続計画の点検・評価方法 ・策定後の評価方法（訓練結果に基づく弱点の把握） (3) 継続的な改善プロセス ・持続可能な事業継続計画とするための維持改善プロセス ・変化する攻撃手法や社会情勢に合わせたアップデート 【演習】サイバー攻撃発生シナリオに基づく簡易版BCPシミュレーション （項目2-3で作成したマニュアルの実効性を検証）	2.0
			合計時間	6.0
			うち演習時間	2.0

カリキュラム作成のポイント(重要)
<p>次の点を到達目標にカリキュラムを作成しております。</p> <p>「自社を取り巻く災害（リスク）環境を知り、現場責任者として、事業継続計画の考え方を理解し、現場サイドにおける簡易版の事業継続計画を策定する。また策定した事業継続計画を社内に普及・促進できるスキルを習得する」</p> <p>さらに</p> <p>①「止まらないこと」へのフォーカス：自然災害もサイバー攻撃も「業務が止まる」という点では同じです。このカリキュラムでは、原因が何であれ、いかに早く復旧させるかという「レジリエンス（回復力）」を強調しています。</p> <p>②演習のアップデート：演習の中で「IT資産の把握」や「サイバー攻撃時の初動」を考えるステップを設けることで、より実務的で現代的な内容になります。</p> <p>③役割分担の明確化：「現場の防災担当」と「IT担当」が別々になりがちな組織において、両者が連携する必要性をカリキュラム内で示唆しています。</p>